

森づくりボランティア活動体験報告

平成29年2月

横浜市では、「森づくりボランティア」に登録いただいている個人と森づくり活動団体とをつなぐ「橋渡し」を実施しています。今回は、瀬上市民の森（栄区）で活動する森づくり活動団体である、「瀬上さとやまもりの会」に受け入れていただいた活動体験について報告します。



活動報告

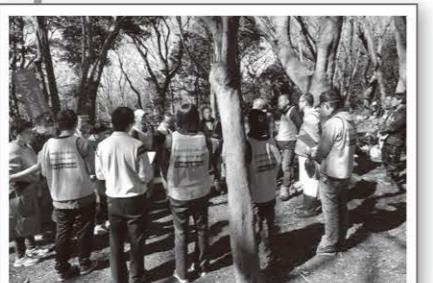
横浜南部の円海山周辺にある「瀬上市民の森」は、シンボルである「瀬上池」を中心として、樹林地、竹林、小川、湿地、谷戸田などがモザイクのように多様な環境をつくり、土地所有者、行政、市民団体が瀬上市民の森憲章に基づいて活動しています。

これまでの森づくり活動により、リョウメンシダ・ヤブミョウガ、場所によってはヤマユリ・ヒトリシズカの株も増えつつあります。

今回のボランティア活動体験では、杉林の光環境を改善し、林床植物の生育を図るため、弱小木、欠損木、暴れ木等の不良木の除伐等の作業を瀬上さとやまもりの会会員の指導を受けながら実施しました。作業後は昼食を取りながら懇親会を行いました。参加者からは次のような感想がありました。

- ・自分たちの作業で林内の光環境が改善したことが実感でき、嬉しかった。
- ・日頃活動している団体の大変さが分かった。
- ・今後も定期的に活動に参加してみたい。

今後も、森づくりボランティア活動体験を開催していくので、是非皆さんもご参加ください。



◇次号の発行予定◇ No.94は平成29年6月末頃の発行予定です。

平成29年3月発行

No.93

よこはまの森

ニュース
レター

横浜市環境創造局みどりアップ推進課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 tel 045-671-2624 fax 045-224-6627
【よこはまの森ニュースレターHPアドレス】<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyoudou/morivolunteer/mori-news.html>

アドバイザー派遣特別号

森づくりの研修を、皆様の森で実施しませんか？

環境活動支援センターでは、森づくりに関する様々な研修を行っていますが、参加者から「自分たちの森で研修を行ってほしい」というご要望をいただくことがあります。

そこで今回は、森の特徴に合わせた、オーダーメイドの研修について、特別号として紹介させていただきます。

- Q** 環境活動支援センターが実施した研修の定員に限りがあり、多くのメンバーが受講をあきらめました。
同じ研修を自分たちが活動している森で実施してくれるの？
- A** 半日程度で実施できるものであれば、充分検討できます。
お気軽にご相談ください。
- Q** これまで何種類の研修を行ったの？
- A** 今年度及び昨年度に実施した研修を紹介します。



団体	研修内容	平成28年度	団体	研修内容	平成27年度
ガールスカウト横浜地区スカウトの森（氷取沢市民の森）	森の観察会及びKY活動や草刈実習を通じた安全管理の研修		飯島市民の森愛護会	クヌギ林の枝打ちとそだ柵作り	
今宿市民の森愛護会	樹林地や湿地の環境変化の確認（観察会）と今後の作業及び役割分担（愛護会と横浜市の）の確認		今宿市民の森愛護会	樹林地管理作業による環境変化の確認（観察会）	
メゾンふじのき台保存緑地作業部会（緑地保存地区・民有林）	樹林地管理の中長期計画づくり		東寺尾ふれあいの樹林愛護会	森の現状確認（観察会）と森の魅力を引き出すための課題整理	
荒井沢市民の森愛護会	森づくりボランティア（個人ボランティア）による谷戸の作業（田起こし）体験・活動支援による橋渡し		鍛冶ヶ谷市民の森愛護会	竹林の間伐材を活用した竹柵作り	
本郷ふじやま公園運営委員会公園愛護会	安全管理と剪定作業（講義）、梅の施肥（実習）		ガールスカウト横浜地区スカウトの森（氷取沢市民の森）	団体と森づくりボランティアの橋渡し（ロープを使用した伐採や落ち葉かき等を共同で実施）	
			本郷ふじやま公園運営委員会公園愛護会	梅林の樹木剪定の研修	

ご興味のある団体の方は、ぜひ、
みどりアップ推進課まで、お問い合わせください！

※対象団体：市民の森愛護会、ふれあいの樹林愛護会、森づくり活動団体

※今年度の募集は終了しましたので、実施は来年度以降になります。

※募集の枠に限りがありますので、お受けできない場合もあります。

お問合せ先：みどりアップ推進課（森づくり担当）

TEL.045-671-2624



横浜みどりアップ計画

横浜市では、「緑豊かな横浜を次世代に」継承するため、横浜みどり税を財源の一部に活用し、取組を進めています。

オーダーメイドの研修事例紹介

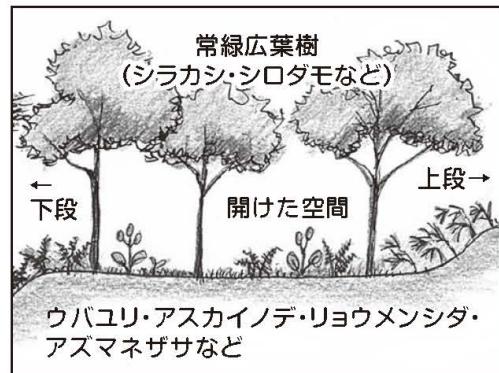
研修事例

生きものに配慮した樹林地管理

生きものの生活と管理作業はつながっている



子供たちによる利活用も想定している森で、どのような管理を行えばよいのか、という課題に対して、森の観察会を通して、生きものの視点で環境を捉え、管理作業によってどのような環境をつくる（維持する）と、どのような生きものが暮らせるのかを学びました。



【現状の環境】

樹林はシラカシ・シロダモなど常緑広葉樹が多い。林床はウバユリ・アスカイノデ・リョウメンシダ・アズマネザサなどが生育している。森の中は、下枝のない開けた空間。空中湿度が高く、湿った環境。

- アオゲラの巣がある
- チョウ道となっており、モンキアゲハやクロアゲハがよく通る

指標種（案）：リョウメンシダ、イノデ、ウバユリ、アオゲラ

目標種（案）：ギンラン、クロジ、クロコノマチョウ、シロハラ、ノウサギなど

※指標種：環境を見る時に物差しとなる種類

※目標種：将来、見られるようになることが望まれる種類

【管理のアドバイス】

利用するエリアと保護するエリアを分けて、利用と保護の両立を図る。さらに細かくエリア分けして、それぞれ目的をもって管理する。

- ササ藪を刈り残すエリアを設ける。→ノウサギが好む
- シダの茂みを残す。→クロジが好む

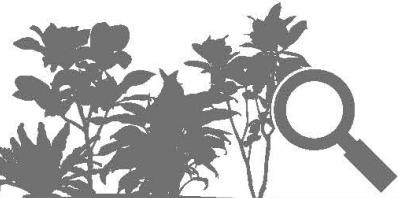
■高木を伐り過ぎない。

- 乾燥を防ぐ
- シダ類を維持する
- ある程度の暗さを保つ
- クロコノマチョウは暗い所を好む
- ギンランはやや暗い所で見られる

研修事例

モニタリング

継続することで、環境の変化を知ることができます



動植物の調査を定期的に行う「モニタリング」について、専門家に解説していただきました。

■モニタリングの役割

- 現在の環境を知ることができる。
- 継続し、積み重ねると、動植物の増減等で環境の変化に気づくことができる。
- ゾーニングや作業範囲を設定するときにモニタリング結果を分析して活用する。
- モニタリング結果を仲間と確認することで、現在の森の環境について、より深く共有できる。

【例】リョウメンシダの株数の変化▶



リョウメンシダが生育できる

↳ 空中湿度が高い湿った環境で、適切な日照があるということ

たくさんあったリョウメンシダが減ってきた!

↳ 乾燥してきた、または明るくなりすぎたということ

光が入る量が増えた?
風が抜けるようになった?
剪定をし過ぎていないか?
間伐をし過ぎていないか?

今後の管理をどのように進めるか?
の目安となる

リスト化する、グラフ化する、地図に落とす

↳ 分析することで、変化が分かりやすくなる。管理に反映できる。

その他のモニタリングの例

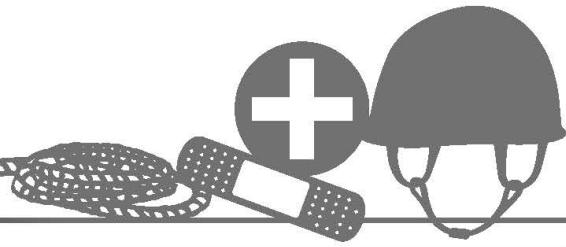
ウバユリの数（花や実の数、分布など）、アオゲラの巣、どんな生きものがいるか、など

今年度に氷取沢市民の森で実施したオーダーメイドの研修について、実施内容と専門家からのアドバイスを紹介します。

研修事例

安全管理

楽しく活動を続けるための技術



子供の参加

段差

マムシ

など…

作業範囲を明確にする！

段差がある所、マムシがいそうな所に立ち入らないよう、ロープを張る、見張りを立てる等して、その先には行かないようにする。

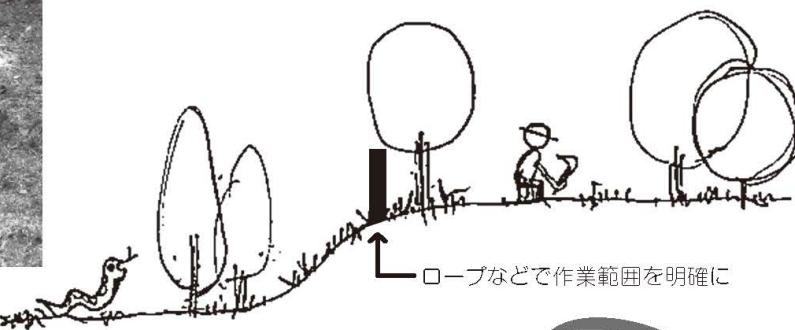
特に子供が活動する時には、より分かりやすく。

なぜダメなのか、はっきり分かりやすく伝える！

湿っている場所はマムシが好むこと、マムシの毒は神経毒であること等、危険である理由まで具体的に伝えることが大切。



KY活動実施の様子



ロープなどで作業範囲を明確に

研修事例

草刈（実習）

作業の注意点

作業実習を通して、安全な草刈の仕方を学びました。



①左足を引き、右足を前にしてかがむ。（右ききの場合）

左の膝を地面につき、手の届く範囲は足を動かさずに刈る。左足が前にあると、鎌が当たって怪我をしてしまう。

②手首のスナップをきかせ、下から上にすくうように刈る。

地面はつつかないように。草に当たる瞬間だけ力を入れる。それ以外は力を入れず、鎌を回すような感じで。

③刈りくすは鎌で寄せ集める。

※鎌はよく研いでおくこと。
※斜面の場合、下から上へ刈り進む。
※草丈を高く刈りたい場合は、刈りたい高さで鎌を振ればよい。
※片付け、道具の手入れも忘れずに。

